

2021年(令和3年)9月17日(金曜日) 第3842号

科学新聞

週刊

(全月発行)

発行所 科学新聞社

〒21-113-0119

東京都神奈川郡藤沢市 2-14

電話 045-845-8761

FAX 045-845-8746

mail:edit@sci-news.co.jp

〒107-7033-8752

購読料 1ヵ月
2,800円 (税別)

海洋ゴミ調査「船口ロボット」開発

海面・海中・海底のゴミを効率的に見える化

長崎大





長崎大学海洋未来インベニション機構の山本都夫教授らの研究グループは、自立型船口ロボット(AUV)を開発したと17日発表し、従来の海洋ゴミの調査は、海面・海中・海底の海洋ゴミを効率的な調査に近づける。カメラで撮られた動画から、海面・海中・海底の3Dモデルが作成できる。船口のケネルで自立航行可能なROVと接続されている。どのようか深さに移動できるが、海面は海線付近の調査を想定。マイクロプラスチックの回収だけでなく、赤潮のモニタリングにも役立つと期待されている。

開発は国土交通省の「海の次世代モビリティの利活用に関する実証事業」で行われた。

実証試験は、(一社)対馬CAPPA、彦根科学館、対馬市と共同で10月に実施が予定されている。

山本教授は「海洋ゴミはマイクロプラスチックもあり、マイクロからマイクロ、マイクロまで海洋ゴミ問題の解決に貢献したいと考えています」と語った。

開発した船口ロボット(長崎大学山本都夫教授提供)

開発した船口ロボットは、運動性に優れ、その場で旋回が可能で、水上、水中、カメラを遠くまで動かすことができる。カメラで撮られた動画から、海面・海中・海底の3Dモデルが作成できる。船口のケネルで自立航行可能なROVと接続されている。どのようか深さに移動できるが、海面は海線付近の調査を想定。マイクロプラスチックの回収だけでなく、赤潮のモニタリングにも役立つと期待されている。

備え、水上カメラは360度回転でき自動撮影が可能で、撮影画像はリアルタイムで省上に送られる。水中カメラで撮られた動画からは、海面、海面・海中・海底の3Dモデルが作成できる。

船口のケネルで自立航行可能なROVと接続されている。どのようか深さに移動できるが、海面は海線付近の調査を想定。マイクロプラスチックの回収だけでなく、赤潮のモニタリングにも役立つと期待されている。

開発は国土交通省の「海の次世代モビリティの利活用に関する実証事業」で行われた。

実証試験は、(一社)対馬CAPPA、彦根科学館、対馬市と共同で10月に実施が予定されている。

山本教授は「海洋ゴミはマイクロプラスチックもあり、マイクロからマイクロまで海洋ゴミ問題の解決に貢献したいと考えています」と語った。